

紙芝居に関する保育者の意識と活用状況 —保育者の保育経験年数との関係から—

小島 千恵子
鬢 久美子
高瀬 慎二

1. はじめに

本研究は、本学の子ども文化と紙芝居プロジェクトが2010年より取り組んできた紙芝居と保育とのかかわりに関した調査研究を継続したものである。本プロジェクトが、紙芝居と保育のかかわりについて継続調査を行うことは、紙芝居を保育の中で、保育者と子どもが、また、子どもと子どもが心と心をふれ合わせ、豊かな人間関係を育むための教材、教具として紙芝居が有効であることを、検証していくことを目的としている。一方で本プロジェクトは、「キッズ紙芝居コンテスト」を経験的実証の試みとして毎年実践している。研究、実践を通して得られた結果をもとに、保育現場で具体的な紙芝居の活用方法として確立し提案したいと考えている。昨年度(2012年)は、保育者の紙芝居に関する意識と活用状況を明らかにすることを目的に愛知県下の幼稚園および保育所を対象にアンケート調査を実施し、①幼稚園と保育所の比較、②保育経験年数の比較、③保育の中で紙芝居が教材教具としてどのように活用されているかという3つの視点で分析を行った。その結果、保育者の紙芝居への関心は、幼稚園、保育所を問わず高く、保育の中で広く活用されていることがわかった。また、紙芝居を保育の中で活用する際には、紙芝居の下読みを行い、声の出し方や間の取り方などに気をつけていることも明らかになった。しかしながら、紙芝居の特性を活かし、効果的に演じるための道具である紙芝居の舞台は、ほとんど使用されていなかった。さらに、③の分析視点では、保育者が自作した紙芝居を保育の中で活用したり、子どもに紙芝居を作らせるといった、オリジナルな教材教具として紙芝居を保育の中に取り入れたりすることもほとんどされていないことが確認された。ところがこの調査の中で、保育経験年数が16年以上の保育者群と、保育経験年数

がそれ以下の保育者群と比較してみると、その結果に少し異なる傾向が見られた。保育経験が16年以上の保育者の中には、ただ単に既成の紙芝居を活用するに留まらず、保育者自身が紙芝居を自作して子どもの前で演じたり、保育の中で子どもに作らせたり、子どもが自作した紙芝居を子ども自身に演じさせたり、演じ方を指導したりしたことがある保育者が存在することがわかった。この結果は、紙芝居を保育の中でオリジナルな教材、教具として活用するための意義を見出す糸口になることが推測されさらに詳しい調査を行うことが課題となった。

そこで、前回の調査で明らかになったことや、示唆されたことをふまえ、本研究では、保育経験年数を考慮に入れ調査・分析を行い、保育経験年数16年以上の保育者の紙芝居の活用状況が前回調査した結果のように他の年代の保育者と本当に異なるのか、異なるとしたら何がどのように異なるのかを詳しく探り、紙芝居を自作し、演じたことや、子どもが紙芝居を自作し、演じることを保育の中に導入する経緯や経験を詳しく調査することで保育の中で紙芝居を媒介にして、子どもと保育者が心と心をふれ合わせ、コミュニケーション力を身につけるための効果的な教材、教具として紙芝居を活用することの意義を見出し、具体的な方法を確立する手がかりを得たいと考えた。

2. 調査概要

(1) 調査対象

愛知県下の幼稚園83園、保育所148園、計241園を対象に、1園につきそこで勤務する保育経験年数1年～2年の保育者1名、3年～15年の保育者1名、16年～20年の保育者1名、21年以上の保育者1名、計4名分のアンケート用紙、合計924枚を郵送し、幼稚園206枚、保育所316枚計523

枚のアンケートを回収した（回収率56.6%）。内有効回答数は522枚。回収したアンケートの保育経験年数の内訳は、1～2年 110枚、3～15年 233枚、16～20年 80枚、21年以上 96枚であった。

調査対象者が不在の場合は、その年代に近い保育者に回答を依頼した。

(2) 調査方法

アンケート調査

回答は、5件法、選択式、一部自由記述とした。

(3) 調査実施期間

2013年4月中旬～5月上旬

(4) 調査内容

①保育者の紙芝居に対する関心・理解（回答は5件法）。

紙芝居への関心・理解の度合、紙芝居の演じ方、作り方に関する理解、保育の中での紙芝居の取り入れ方について。

②保育における紙芝居の活用状況に関すること（回答は選択式）。

保育の中での紙芝居活用の仕方、紙芝居の研修及び講習会への参加について、手作り紙芝居の保育への活用、子どもへの紙芝居作りと演じ方の指導について。

③保育の中で紙芝居を活用することの意義、保育の中に手作り紙芝居を導入した経験（回答は自由記述）。

具体的な質問項目については、文末に資料1として添付したアンケート用紙に示すとおりである。

(5) 分析方法

今回は、幼稚園、保育所に関係なく、保育経験年数との関係で分析を進めた。回収したアンケートの有効回答522を保育経験年数1年～2年、3年～15年、16年～20年、21年以上に分類して比較した。保育経験年数の分類は、愛知県の保育経験の段階別現任研修の基準に沿って行った。保育経験年数16年以上の保育者に着目して分析を進めるため、他の年代の保育者にも同時に、同項目で調査し比較した。

3. 結果と考察

(1) 保育者の紙芝居に対する関心・知識

紙芝居への関心度を探るために絵本との比較で回答を求めた。結果は、図1に示すとおりであった。

紙芝居は絵本よりも関心があるかどうか尋ねたところ、それぞれの年代で「どちらともいえない」という回答が多かった。また、「そうである」「どちらかというところである」という回答で比較してみると、保育経験年数が少ない年代の方が絵本よりも紙芝居に関心があることがうかがえた。

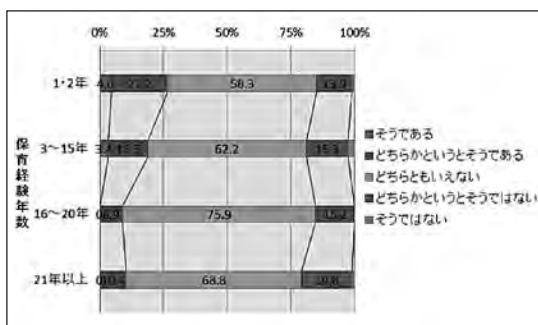


図1. 紙芝居への関心度

次に紙芝居の活用度を探るために絵本との比較で回答を求めた。結果は、図2に示すとおりであった。

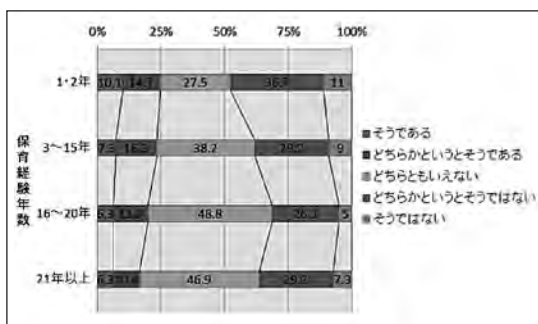


図2. 紙芝居の活用度

この結果も紙芝居への関心度と同様に「どちらでもない」という回答が多かった。これは、保育経験年数が多くなるほど値が高くなり、関心度よりも明確になっている。

以上の2つの結果から、紙芝居は、保育の中の様々な場面で、そのものを目的として手軽に活用できることから、保育経験が少ない保育者にとって、最適な教材である可能性がうかがえた。一方、保育経験が多くなると、絵本、紙芝居を保育の中

で活用する経験も深まり、絵本、紙芝居それぞれのよさを感じたり、活用方法の違いも理解できたりすることから「どちらともいえない」という回答になったことが推察された。

紙芝居に対する知識については、図3～5に示すとおりであった。

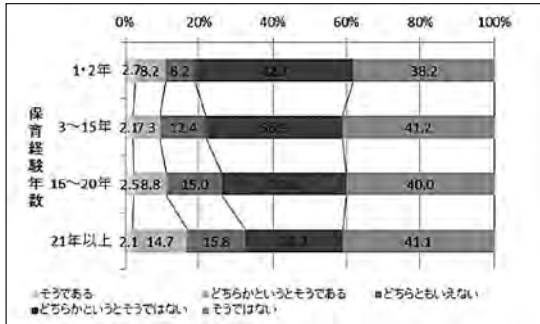


図3. 紙芝居に関する文献講読

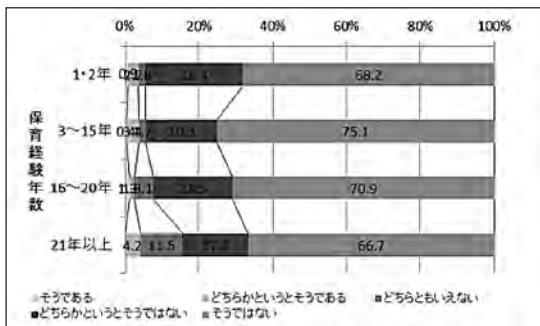


図4. 紙芝居の歴史調査

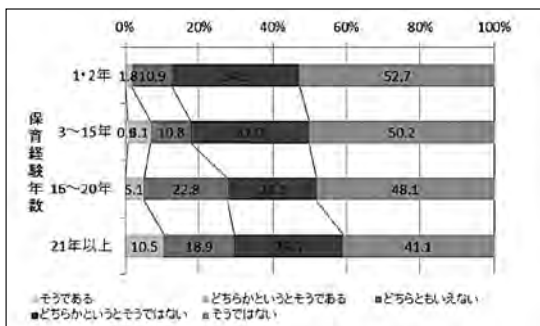


図5. 紙芝居の情報収集

この3項目ともにどの年代も「そうではない」という回答が多かったが、値は少ないものの保育経験年数が多くなると、「そうである」「どちらかというとうである」という回答が多くなっていく傾向が見られた。保育の現場では、紙芝居の知識を持つために、文献を読んだり、歴史を調べた

り、情報を収集するということがあまりされていないが、保育経験を重ねることで、知識を深めようとする傾向があることが推察された。

(2) 紙芝居の特性を活かした活用の仕方

紙芝居に特性を活かした使い方をするためには、紙芝居を演じるまえには、必ず「下読みを行い」、演じる際には「声の出し方」「間の取り方」「ぬき方」に気をつけることが効果的であると言われている(2006 右手)。この調査は前回も行っているが、今回の調査でもこれらのことについて回答を求めた。結果は、図6～9に示すとおりであった。

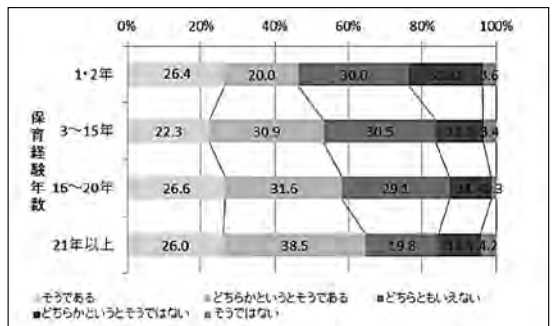


図6. 紙芝居を演じる前の下読み

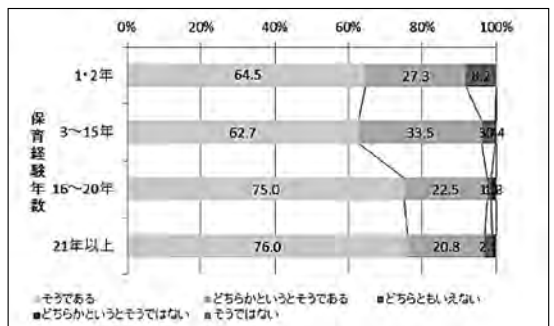


図7. 紙芝居を演じる時の声の出し方

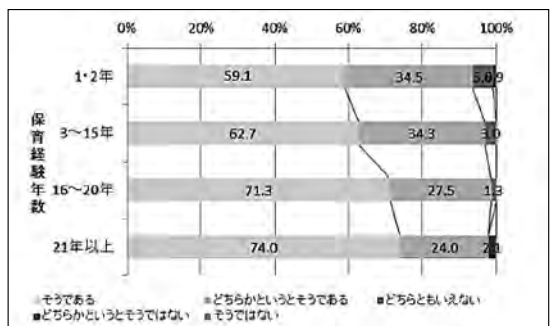


図8. 紙芝居を演じる時の間の取り方

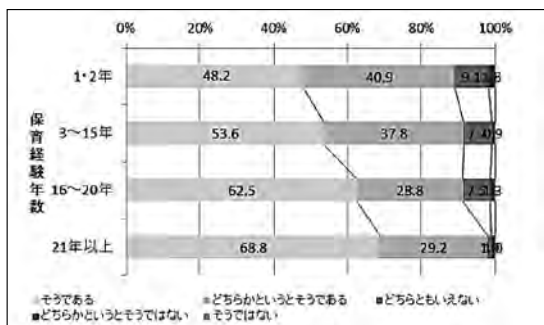


図9. 紙芝居を演じる時の紙芝居のぬき方

どの結果についても、「そうである」「どちらか」という回答が多かった。この調査は、前回の調査でも同様の結果を得ることができている（2012 野崎ら）。保育の現場で保育者は、紙芝居の特性を活かして子どもに紙芝居を演じていることが明らかになった。この結果について保育経験年数との関係で見ると、わずかながら、保育経験年数が多くなるほど、値が高くなっていることがわかった。保育経験を重ねるほど、演じ方に気をつけている様子が見えてきた。

紙芝居の特性を活かした活用するための道具である「舞台」は、前回の調査ではほとんど使用されていないという結果が出ている（2012 野崎ら）。そこで今回の調査では、舞台を使うことが効果的かどうか併せて回答を求めた。その結果は、図10・11に示すとおりであった。

紙芝居舞台は、前回の結果と同様に使用されていないことがわかった。しかしながら、値は少ないものの、保育経験年数との関係で見ると、保育経験年数が高くなるほど舞台が使用されている傾向にあることがわかった。また、保育経験年数が16～20年の保育者群では、紙芝居舞台を使うことが紙芝居の特性を活かすのに効果的だと感じていることがわかった。

これらのことから、保育現場で紙芝居は、その特性を活かした活用がなされていて、保育者の保育経験が多くなるほどその傾向は高くなることが明確になった。紙芝居舞台はあまり使用されていないが、保育経験が多い保育者の中には、紙芝居の舞台を使用し、舞台を使用することが紙芝居の特性を活かすために効果があると感じている人がいる傾向にあることがわかったが、保育経験年数

16年以上の保育者については、その値が交差している。この結果では、紙芝居舞台を使用することは効果的だと感じているが、舞台は使用していないということを示していることになる。これは、保育経験年数が16年以上になると、保育現場では、主任、園長という立場になり、担任を持たなくなることから、保育現場で紙芝居を演じることが少なくなることから出てきた結果であることが推察された。

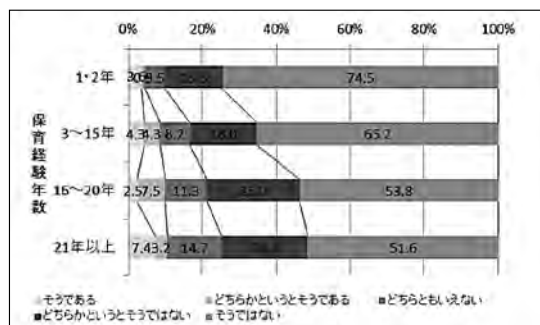


図10. 紙芝居舞台の使用

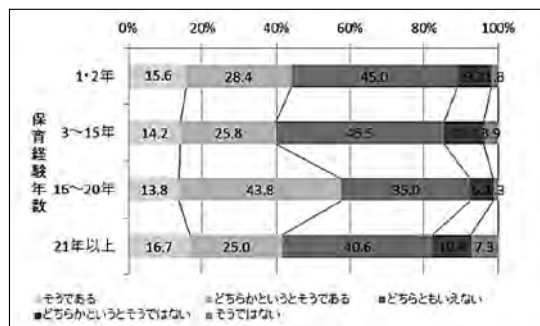


図11. 紙芝居舞台の効果

(3) 自作紙芝居の保育への導入

本研究の目的にある保育の中で紙芝居をオリジナルな教材として活用するための意義を見出し、具体的な方法を確立していくためには、保育者が保育現場に紙芝居を積極的に取り入れていく意欲が必要となる。そこで、紙芝居を自作したり、子どもに作らせたりすることについてどのように感じているのか回答を求めた。その結果は、図12・13に示すとおりである。

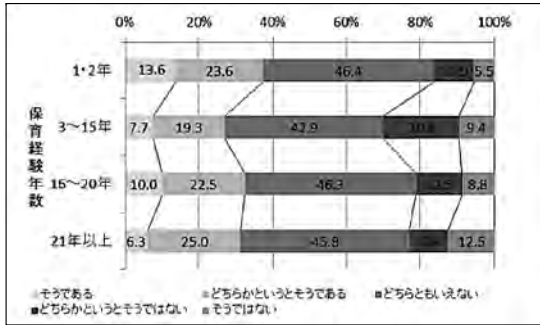


図 12. 保育者が紙芝居の自作すること

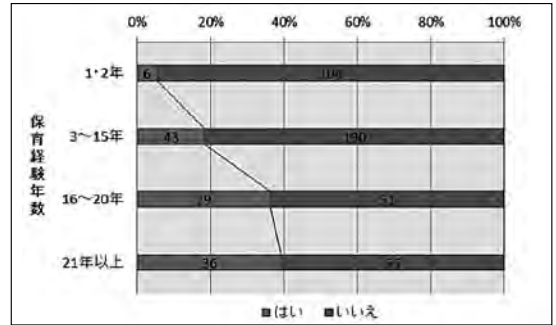


図 15. 自作紙芝居を子どもの前で上演したこと

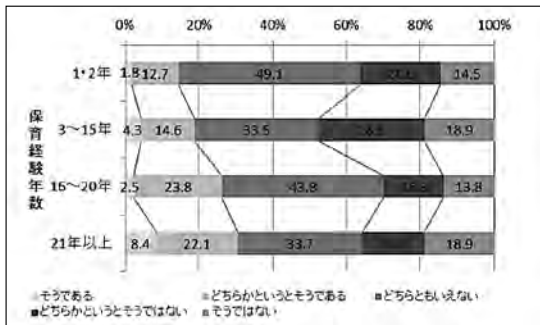


図 13. 子どもに紙芝居を自作させること

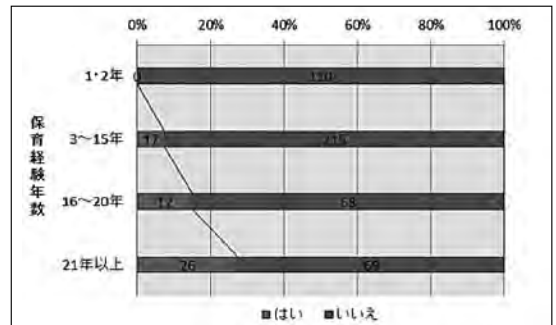


図 16. 保育の中で子どもに紙芝居を作らせた経験

どちらの項目も「どちらともいえない」という回答が多かった。紙芝居を自作するというについてあまり積極的ではないことがうかがえるが、子どもに紙芝居を作らせることについては、値は少ないものの保育経験年数が多くなるほど、意欲があることがうかがえた。実際に保育者が紙芝居を自作したことや自作紙芝居を子どもの前で演じたこと、保育の中で子どもに紙芝居を作らせたことがどのくらいあるかについては、図14～16のような結果であった。

紙芝居を自作したこと、子どもの前で自作紙芝居を演じたこと、子どもに紙芝居を作らせたことそれぞれにその値は少ないが、保育経験年数との関係で見ると、保育経験年数が多くなるほどその値が高くなる傾向にあることがわかった。

これまでの調査結果から、保育者は紙芝居に関心があり、保育の中で紙芝居を活用する時は、紙芝居の特性を活かして活用することを心がけてはいるものの、オリジナルな教材・教具として本格的に保育の中に取り入れようとする様子はほとんど見られなかった。しかしながら、保育経験年数16年以上の群には、紙芝居を自作したり、自作紙芝居を演じたり、保育の中で子どもに紙芝居を作らせたりしている保育者が少なからず存在することがわかった。そこで、保育経験年数と今回のアンケート調査の質問項目との関連性を見るためにコレスポネンス分析を用いて分析し、その結果を検討して考察を加えてみた。その結果は、図17・18に示すとおりであった。

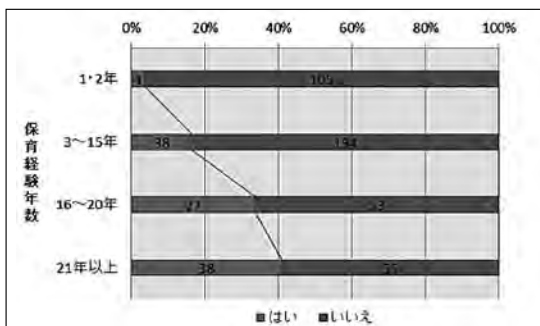


図 14. 紙芝居を作った経験

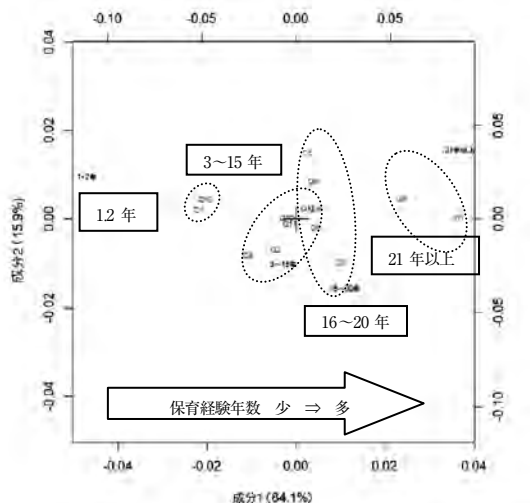


図 17. アンケートの質問 Q1-1 ~ Q1-14
と保育経験年数との関連

アンケート調査の質問 1 の (1) ~ (14) の回答と保育経験年数との関連を見ると、保育経験年数 1・2 年では、「(1) の紙芝居は絵本より関心がある」「(13) 紙芝居を自分で作ってみたいと思う」の質問との関連が高く、保育経験 3 ~ 15 年では、「(2) 紙芝居は絵本より保育の中でよく活用する」「(8) 紙芝居は舞台を使った方が効果的だと思う」「(9) 紙芝居を演じる前に下読みをする」「(10) 紙芝居を演じる時は声の出し方に気をつけている」「(11) 紙芝居を演じる時は間の取り方に気をつけている」「(12) 紙芝居を演じる時はぬき方に気をつけている」「(14) 保育の中で子どもに作らせたいと思っている」の質問との関連が高かった。16 ~ 20 年になるとそれに加え、「(3) 保育の主な活動の中で意図的に紙芝居を活用している」「(4) 紙芝居の関した詳しい文献を読んだことがある」「(5) 紙芝居の歴史について調べたことがある」の回答との関連が高くなっていった。21 年以上では、「(6) 紙芝居について情報収集をしている」「(7) 紙芝居を演じる時は、舞台を使用している」の質問との関連が高くなっていった。この分析から、保育経験年数が少ない頃紙芝居に関する事は、個人的な興味関心である様子が推察されるが、保育経験が多くなっていくと個人的な興味関心が、保育の中に紙芝居を意図的に取り入れて活用し、紙芝居の特性を活かせるように、演じ方を工夫して

いる様子がうかがえた。

さらに保育経験が多くなり、紙芝居の良さを実感した保育者は、紙芝居についての歴史を調べたり、情報収集したりし、紙芝居演じる際には、紙芝居舞台を使用して効果的に演じていることが推察された。

次に、質問 2 (1) ~ (16) についての保育経験年数との関連を見てみる。その結果は、図 18 に示すとおりであった。

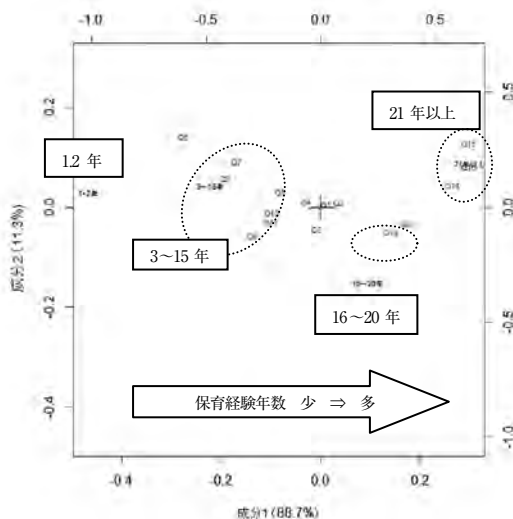


図 18. アンケートの質問 Q2-1 ~ Q2-16
と保育経験年数との関連

アンケート調査の質問 2 の (1) ~ (16) の回答と保育経験年数との関連を見ると、保育経験年数 1・2 年と質問項目との関連は見られなかった。紙芝居に関する事について、研修や講習を受けることはほとんどないようである。この結果と質問 1 の結果との関係でみると、保育経験が少ない頃は、ただ単に個人的な興味関心に留まっていることが推察された。保育経験年数 3 ~ 15 年では、「(5) 紙芝居の演じ方の手ほどきを受けたことがある」「(7) 名古屋柳城短期大学が主催した紙芝居フォーラムを知っている」「(8) 名古屋柳城短期大学が主催した紙芝居フォーラムに参加したことがある」「(9) 紙芝居の作り方の講習を受けたことがある」「(10) 保育者になる前に紙芝居を作ったことがある」「(11) 保育者になる前に人前で自作の紙芝居を演じたことがある」の質問との関連

が高かった。16年～20年では、「(12)保育者になってから紙芝居を自分で作ったことがある」「(13)保育者になってから自作の紙芝居を子どもの前で演じたことがある」が高かった。21年以上になると、「(14)保育の中で子どもに紙芝居を作らせたことがある」「(15)保育の中で子どもに紙芝居の演じ方を教えたことがある」「(16)保育の中で子どもが作った紙芝居を子どもに演じさせたことがある」が高かった。これらのことを、質問1の結果との関係からみると、保育経験が多くなると保育の幅を広げるために、研修や講習会へ参加するようになり、そこで得た知識や技術を保育の中で活かして実践している様子うかがえた。そして、参加した研修会や講習会で紙芝居への関心がさらに深まった保育者は、その知識や技術を活かして保育者自身が紙芝居を自作したり、自作した紙芝居を子どもの前で演じたりしていることがわかった。また、保育者自身が紙芝居を自作して演じたことがある経験を活かして、保育の中で子どもに紙芝居を作らせたり、子どもに紙芝居の演じ方を教えたりしていることがわかった。

子どもに紙芝居を作らせたり、子どもの自作紙芝居の演じ方を教え、演じさせたりしたことがある保育者は、「オリジナルなお話を作っていく過程で協力したり、意見交換し合ったりできる。みんなの前でそれを協力して発表することで満足感や達成感が持て、自信につながる」「作る喜びや演じる喜びを感じるとともに自由に表現に躊躇するタイプの子どもには取り組みやすいと感じた」「視覚に訴え、子どもの印象が深くなり、興味も深くなる。イメージを膨らませたり、広い視野で物事を捉えるきっかけになる」「子どもが紙芝居をグループでつくり出すと、みんなで意見を言ったり、考えを積極的に出し合ったりする姿が見られた。仲間づくりのきっかけになってくれるとよいと思う」など、自由記述欄に、その様子を詳しく記述していた。

4. 結果のまとめ

以上、今回の調査では、前々回、前回の調査と同じ結果であったものも少なくないが、分析を深めることで、その一部ではあるかもしれないが、保育者の紙芝居への関心の様子と、その関心がど

のように保育現場で活かされているのかがわかった。前回の調査では、保育経験年数について明確に指定せずに調査を行いその結果、16年～20年の保育者群で示す値に異なる傾向見られた。今回はそこに着目して、保育経験年数を指定して調査を行った結果、今回の調査で16年～20年ではなく、16年以上の保育者にその傾向が見られることが明らかになった。年代ごとの回収数が同数でなかったため、その違いが明らかであったとは言いきれないが、保育の中での紙芝居の活用と保育経験年数との関係について、以下のようなことが示唆された。

- ①保育経験年数が多くなると、紙芝居にも絵本にも関心が高くなる。
- ②保育経験年数が多くなるほど、紙芝居の特性を活かして活用している。
- ③保育経験年数が多くなるほど保育の中で紙芝居を意図的に活用し、紙芝居を効果的に活用している。
- ④保育経験が多くなるほど紙芝居を自作したことがあり、子どもの前で演じている。
- ⑤保育経験年数16年以上の保育者は、紙芝居を作ったことがある人が多く、自作した保育者は、保育の中で子どもに紙芝居を作らせる経験をしたことがある。また、子どもに演じ方を教え、演じさせている。

5. 今後の課題

保育現場での紙芝居の活用状況について調査を重ねてきた結果、保育経験年数が3年を経過すると、紙芝居に関心を持つようになり、保育の中で意図的に活用するようになることがわかった。また、効果的に活用するための方法は、研修に参加するなどして、保育技術として習得している様子うかがえたが、紙芝居の特性について理解したうえの活用状況ではないことがうかがえた。また、保育の中で紙芝居を自作する、子どもに作らせるということを取り入れる保育者は少なかった。しかし、保育経験年数が多くなると、手作り紙芝居を保育に導入することが、子どものコミュニケーション力に効果的であることに気づいている保育者もいることがわかった。紙芝居への関心も高く、紙芝居の特性を活かした演じ方をしている保育者

も多い。保育の中に教材・教具として取り入れることの効果に気づいている保育者も少なからず存在していることを今後どのように、保育現場に浸透させていくかが課題である。

本研究の目的である紙芝居を子どもがコミュニケーションを身につけるための効果的な教材・教具として活用することの意義を見出していく基礎は、すでに保育現場にあることが今回の調査から見えてきた。紙芝居に関心を持って、活用している保育者に対して、養成校が研修などを行い、保育の中に導入するきっかけづくりをし、保育実践に結びつけていくことを具体的に提唱していくことが必要だと考える。また、保育養成校においては、保育者をめざす学生に、紙芝居の歴史や特性などの知識を教授すること、紙芝居の特性を活かし、効果的に活用する演じ方を伝授していく必要があるだろう。さらに、それを踏まえて、学生が自ら紙芝居を自作し、自作した紙芝居を演じる経験をすることや、紙芝居を見る人とその感動を共に味わい、達成感を感じることで自分の実践に自信が持てるのではないかと考える。以上のような体験的学習と同時に、保育の中で子どもの活動に取り入れた時、子どものコミュニケーション力の育ちにどのような効果があるのか理論的な側面も合わせて教授することで、学生が保育者として保

育現場で実際に子どもに紙芝居をオリジナルな教材・教具として導入する基礎となるだろう。牽いては保育現場に紙芝居をオリジナルな教材・教具として浸透させていくことに繋がっていくのではないだろうか。今後は、紙芝居を保育の中に導入するより具体的な方法を検討して、保育現場への提案を試みていきたいと考える。

【引用・参考文献】

- 鬘櫛久美子・野崎真琴「保育現場における紙芝居の活用状況」『名古屋柳城短期大学研究紀要』No.32 2010
- 野崎真琴・小島千恵子・鬘櫛久美子・水落洋志「紙芝居に関する保育者の意識と活用状況」『名古屋柳城短期大学研究紀要』No.34 2012
- 右手和子指導・監修『紙芝居の上手な演じ方演じるための5つのポイント』名古屋柳城短期大学子ども文化と紙芝居プロジェクト実行委員会 2006

【付記】

本研究は、日本子ども社会学会第20回大会にて口頭発表した内容に加筆、修正を加えたものである。

紙芝居に関する保育者の意識と実践についてのアンケート

資料1

ご回答いただける方につきまして、次の項目ごとに該当するものに○印をつけ、()内には数字等をご記入ください。

- ① 保育経験年数；1・2年 ・ 3～15年 ・ 16～20年 ・ 21年以上
 ② 性別；女性 / 男性
 ③ 担当・役職；()歳児・フリー ・ 主任 ・ 園長

1. 以下の各質問について5段階評価(5：そうである 4：どちらかというそうである 3：どちらともいえない 2：どちらかというそうではない 1：そうではない)でお答えください。

最も当てはまると思う数字に○をつけてください。

- | | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|---|---|
| (1) 紙芝居は、絵本よりも関心がある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (2) 紙芝居は絵本より保育の中でよく活用する。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (3) 保育の主な活動の中で意図的に紙芝居を活用している。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (4) 紙芝居に関した詳しい文献を読んだことがある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (5) 紙芝居の歴史について調べたことがある。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (6) 紙芝居についての情報収集をしている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (7) 紙芝居を演じる時は、舞台を使用している。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (8) 紙芝居は舞台を使った方が効果的だと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (9) 紙芝居を演じる前に下読みは必ず行っている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (10) 紙芝居を演じる時は、声の出し方に気をつけている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (11) 紙芝居を演じる時は、“間”の取り方に気をつけている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (12) 紙芝居を演じる時は、“ぬき方”に気をつけている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (13) 紙芝居を自分で作ってみたいと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (14) 保育の中で子どもに紙芝居を作らせたいと思っている。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

2. 以下の各質問について、はい、いいえでお答えください。また、はいと答えた方は、質問内容のおおよその回数をお書きください

- | | | |
|--|-----------|-------|
| (1) 紙芝居の研修会や講習会などに参加する。 | はい (回) ・ | いいえ |
| (2) 紙芝居の研修会や講習会などは自主参加ですか。 | はい (回) ・ | いいえ |
| (3) プロが演じる紙芝居を見たことがある。 | はい (回) ・ | いいえ |
| (4) 紙芝居の演じ方について研修を受けたことがある。 | はい (回) ・ | いいえ |
| (5) 紙芝居の演じ方の手ほどきを受けたことがある。 | はい (回) ・ | いいえ |
| (6) 名古屋柳城短期大学の子ども文化と紙芝居プロジェクトの内容をHPで見たことがある。 | はい | ・ いいえ |

紙芝居に関する保育者の意識と活用状況

- (7) 名古屋柳城短期大学が主催した紙芝居フォーラムを知っている。 はい ・ いいえ
- (8) 名古屋柳城短期大学が主催した紙芝居フォーラムに参加したことがある。 はい (回) ・ いいえ
- (9) 紙芝居の作り方の講習を受けたことがある。 はい (回) ・ いいえ
- (10) 保育者になる前に紙芝居を作ったことがある。 はい (回) ・ いいえ
- (11) 保育者になる前に人前で自作の紙芝居を演じたことがある。 はい (回) ・ いいえ
- (12) 保育者になってから紙芝居を自分で作ったことがある。 はい (回) ・ いいえ
- (13) 保育者になってから自作の紙芝居を子どもの前で演じたことがある。 はい (回) ・ いいえ
- (14) 保育の中で子どもに紙芝居を作らせたことがある。 はい (回) ・ いいえ
- (15) 保育の中で子どもに紙芝居の演じ方を教えたことがある。 はい (回) ・ いいえ
- (16) 保育の中で子どもが作った紙芝居を子どもに演じさせたことがある。 はい (回) ・ いいえ

3. 以下の質問については、自由にお答えください。

- (1) 保育の中で紙芝居を活用することの意義についての考えをお聞かせください。
- (2) 子どもの自作紙芝居を演じさせた経験のある保育者の方への質問です。
その時の子どもの反応や様子などについて感じたことを率直にお書きください。
- (3) 紙芝居を保育の中でオリジナルな教材・教具として取り入れていくとしたら、どんなふうに使いたいと思いますか。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

名古屋柳城短期大学では、「子どもと文化紙芝居プロジェクト」の中で、キッズ紙芝居コンテストを行っています。保育の中で子どもたちが作った紙芝居を是非ご応募ください。お待ちしております。

『キッズ紙芝居コンテスト』についてのご意見、ご要望、感想等ありましたらお聞かせください。

A Study on Teachers' Knowledge and Use of "Kamishibai" in Kindergarten and Nursery with a Focus on the Length of Service

Kojima, Chieko*

Bingushi, Kumiko*

Takase, Shinji*

本研究は、紀要第34号で報告した調査研究において、課題となったことを明らかにするためにに行った追加調査の結果をまとめたものである。前回の調査では、保育経験年数が16年～20年の保育者の中には、ただ単に既成の紙芝居を活用するに留まらず、保育者自身が紙芝居を自作して子どもの前で演じたり、保育の中で子どもに作らせたり、子どもが自作した紙芝居を子ども自身に演じさせたり、演じ方を指導したりしたことがある保育者が存在することがわかった。この結果は、他の保育経験年数の保育者群と比較すると少し違う傾向であった。本研究では、保育経験年数を考慮した調査・分析を行い、他の保育者群と異なる傾向の要因は何か探った。保育の中で紙芝居を媒介にして、子どもと保育者が心と心をふれ合わせ、コミュニケーション力を身につけるための効果的な教材、教具として紙芝居を活用することの意義を見出し、具体的な活用方法を確立するための手がかりを得たいと考えたからである。その結果、今回の調査においても、保育経験年数が16年以上の保育者が、紙芝居をオリジナルな教材・教具として活用していることが明確になった。また、保育経験年数が多くなるほど、紙芝居の特性を活かして保育の中で意図的に紙芝居を活用していることが明らかになった。自由記述からは、子どもに紙芝居を作らせたり、子どもに自作の紙芝居を演じさせる過程で、子ども同士が意見交換しコミュニケーション力が育まれると考える保育者がいることが明らかとなった。

キーワード：保育経験年数、紙芝居の特性、オリジナル教材、子ども、自作紙芝居